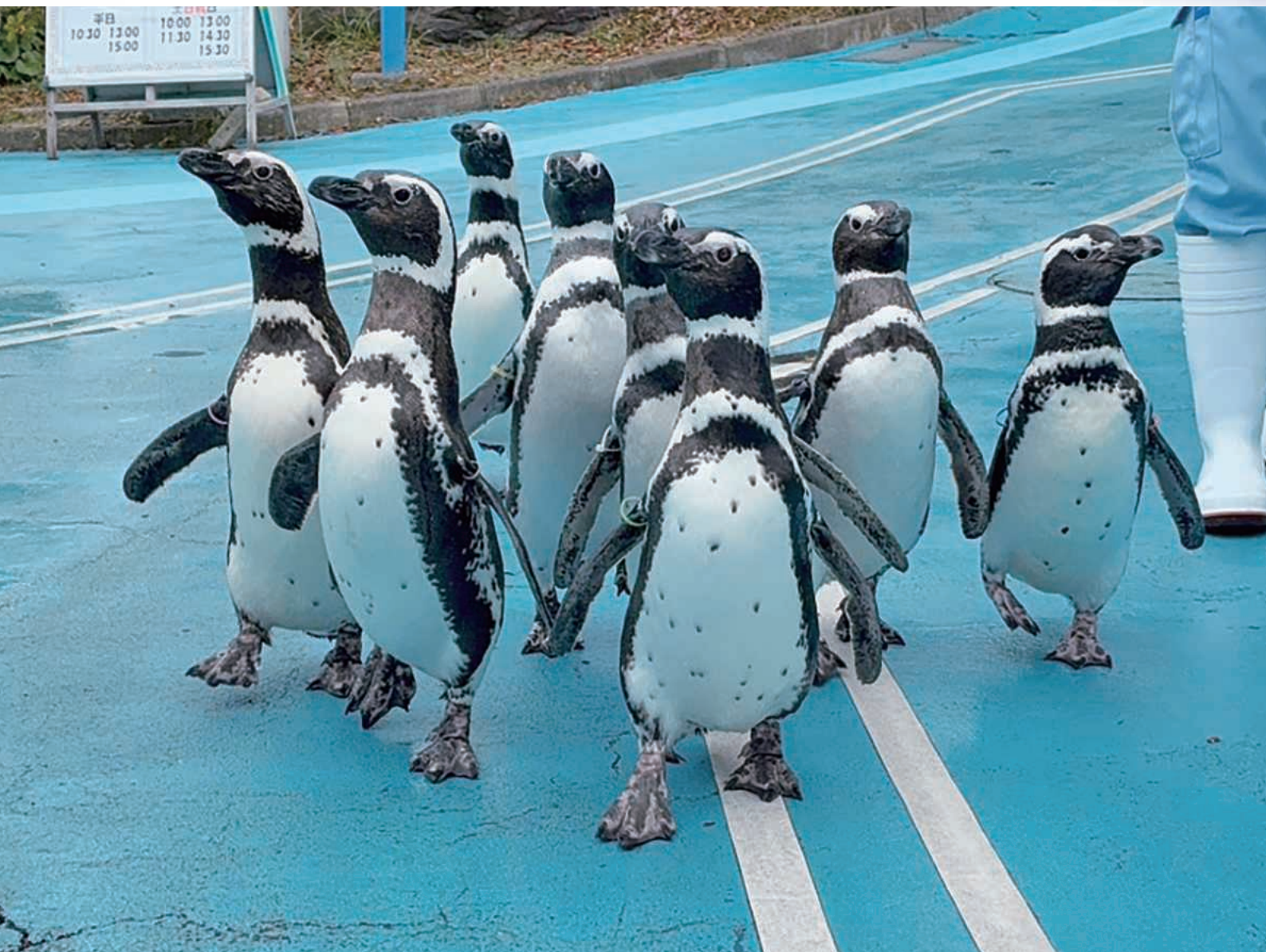


# 能登の 海からのたより

2026.3 No. 85



## 「1年のはじまり」

2026年最初のペンギンのお散歩タイムは、令和8年にちなみ8羽で行いました。普段は3～5羽で行っているため、一段とにぎやかな新年にふさわしいお散歩タイムとなりました。完全復活を果たした当館。多くのお客様に支えていただきながら、新しい年を迎えることができました。このマゼランペンギンたちのように胸を張り、生きものたちとともに一歩一歩前へと進んでまいります。

## マヒトデ

## マヒトデとは

体の中心から端までの長さ(幅長)が19cmにもなる大型のマヒトデです。浅瀬から水深150mの岩場や砂泥域など、さまざまな環境に生息しており、国内では北海道から九州沿岸に広く分布します。当館では冬季、底引き網漁で混獲された個体を搬入しています。当館の個体は暗い紫色の模様のものがほとんどですが、模様が黄色くなる個体も存在し、キヒトデとも呼ばれています。

ヒトデと聞いて星型をイメージする方も多いのではないのでしょうか?ヒトデの仲間はその形から英名では「Starfish」(スターフィッシュ)や「Sea star」(シースター)と呼ばれ、マヒトデも「Japanese common starfish」や「Northern pacific seastar」という英名が付いています。石川県でよく見られるイトマキヒトデは五角形のような形をしています。マヒトデは腕と腕の間の溝が深く、ヒトデらしい形をしています。



マヒトデ



イトマキヒトデ

## ヒトデの体

ヒトデはウニやナマコなどと同じ棘皮動物(きょくひどうぶつ)に分類されま

す。腹側には管足(かんそく)と呼ばれる吸盤状の足のような器官が生えており、岩や壁に張り付いたり、移動したり、エサを口まで運んだりときさまざまな役割があります。

ヒトデには心臓や血液がなく、水管系と呼ばれる器官で酸素を全身に運びます。水管系は中心から各腕に伸びており、多孔板という肛門の近くにある穴から海水を取り込み、体に巡らせ呼吸します。水管系は管足と繋がっており、筋肉の収縮と水圧の変化で管足を動かしています。

口は腹側の中央にあり、胃袋を反転させ体の外に出すことにより、岩の隙間にあるエサや自身より大きなエサも食べることができます。食べたエサは胃の中で消化され、背側の中央にある肛門から糞として排出されます。また、ヒトデは優れた再生能力を持っており、腕が切断されても切り口から再び小さな腕が生えてきます。



管足



エサを食べるマヒトデ

## 実は嫌われもの!?

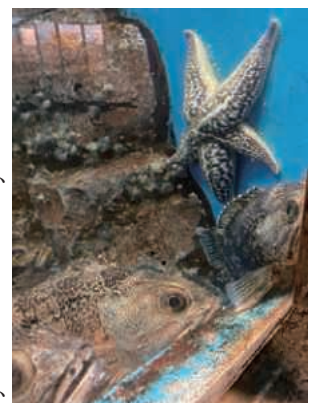
マヒトデは東北地方や熊本県などの一部地域で春季に発達した生殖腺が食

されていますが、多くの地域で食用にはならず、海底で網を引きずるように漁をする底引き網漁に大量に混ざって入ってしまうことや、養殖場のカキやホタテを食べてしまい大きな被害を与えることから、漁業者の方にはあまり好まれていません。また、ヒトデの仲間は一度に数百から数千の卵を産むため、天敵がいなくなると爆発的に増加してしまいます。駆除後の焼却などにも費用がかかるため漁業関係者を悩ませる社会問題にもなっています。

## 飼育員にとっては頼れる存在!

水槽では、その食欲に目を付け『掃除係』として活躍してもらっています。マヒトデと同居しているユメカサゴは水中で落下中のエサにしか興味を示さないため、底に落ちてしまったエサはそのままにしておくも腐ってしまい、水質悪化の原因になるので回収しなければなりません。マヒトデが落ちてしまったエサを食べてくれると飼育員は回収する手間が省け、ユメカサゴは回収の網に驚くストレスがなくなる、と一石二鳥のととてもありがたい存在なのです。

当館ではマヒトデをはじめさまざまなヒトデを展示しており、多種多様なヒトデをご覧ください。マヒトデと見比べてみて、自分の好きなヒトデ



マヒトデとユメカサゴ

をのどじま水族館で見つけてみませんか?最後にはもう一度マヒトデを見に来て『一番』を決めてくださいね!

(山口)

# アシカの白内障手術にむけてのトレーニング

## 1 序論

怪我や病気は年齢、性別に関係なく誰しもが患います。それは動物たちも同じです。怪我や病気を患った場合、人と同様に薬の投与、点滴、時には手術をすることもあります。今回は当館で飼育しているカリフォルニアアシカのユウキが白内障手術に向けて行ったトレーニングを紹介します。

### ・白内障手術までの経緯

動物病院の眼科専門の先生に若年性白内障と診断されました。白内障は眼の中のレンズの役割をする水晶体が白く濁ってしまい視力が低下する病気で、放置していれば失明する可能性もあります。点眼薬で進行を遅らせることはできますが、治療するには手術をする必要があります。そこで手術へむけて2018年8月からトレーニングを開始しました。2019年4月に事前麻酔検査\*を行い、同年9月に白内障手術を行いました。

### ※事前麻酔検査

手術の前に実際に全身麻酔を行い、ユウキの心拍数や体温といった容態の変化を見て全身麻酔をかけても問題が無いか確認し、目の状態を詳しく診断して手術するかを判断するための検査。

## 2 目的

最も重要なことはユウキが安全に手術を受けられるようにすることです。それには保定による物理的、精神的な負荷を軽減させる必要があります。もちろん私たち飼育員の安全への配慮も大事です。アシカの白内障手術を安全に行うには、全身麻酔が必須であり、全身麻酔への過程は保定下で行われることが多いです。しかし、保定をすることは少なからず動物へ物理的、精神的な負荷になり、それが鎮静や麻酔の効き具合に作用することがあります。場合によっては鎮静や麻酔の投与量を増やすことにもなります。よって、保定せずとも全身麻酔を行える状態を目標として、トレーニングを行いました。

一般的にトレーニングではエサを使用します。しかし、麻酔下では誤嚥性肺炎や窒息の恐れがあるため、手術前は給餌ができません。そのため、全身麻酔までの全行程を無給餌で実施することを最終目標に設定しました。

## 3 方法

### ・全身麻酔までの行程

前提として獣舎から約20m離れたところに手術室があり、その前に檻を設置していました。その檻までユウキを台車に乗せて搬送します。次に檻の前まで来たらユウキを誘導して檻に収容し、檻の中で鎮静剤を注射します。最後は吸入用の麻酔マスクを装着して全身麻酔をかけるといふ、3つの行程があります。これらに馴れさせるために行程ごとに分けてトレーニングを行いました。

### ・トレーニング

#### (1) 台車を用いた搬送トレーニング

まず、ユウキに台車を見せて慣らすことから始めました。次にユウキの鼻先をトレーナーの手にタッチさせて、そのまま誘導し、台車に乗るトレーニングを行いました。

そして少しずつ台車を動かしていき、あとは台車に乗っている時間を長くして手術室前の檻まで移動することと、給餌する回数を減らしていき、最後は無給餌で移動できるようになるまでト



レーニングを行いました。

#### (2) 檻収容トレーニング

こちらまずは檻を見せることから始め、慣らした後に檻の中へ誘導していきました。少しずつ時間を伸ばしながら、檻の中で待機させるようにしました。次に檻の前後の扉を片方ずつ閉め、慣れたら両方の扉を閉めるようにしました。鎮静剤の注射に関しては健康管理で定期的に採血を行っているので問題はありませんでした。

#### (3) マスク装着のトレーニング

麻酔マスクの代用品を作製し、装着して慣らすことから始めました。普段通りの呼吸ができることと装着時間を長くできるようにトレーニングを行いました。

#### (4) 一連の流れでトレーニング

最後はこれまで個別にトレーニングしてきたことを一連の流れに沿って尚且つ無給餌で行いました。注射も実際に使用する針を使用して行いました。

## 4 結果

### ・事前麻酔検査

獣舎からの誘導は問題なく、台車にもスムーズに乗ってくれました。移動中は多少、顔が動くことはありませんでしたが、体は動くことなく檻まで搬送することができました。収容も問題なく行い、鎮静剤を注射しました。全身麻酔では、多少マスクを外す動きがありましたが、麻酔が効き始めると徐々に不動化していきました。検査は無事に終了し、麻酔をかけても問題がないこと、手術ができることを確認できました。

### ・問題発生

事前麻酔検査からしばらく後、手術本番にむけてトレーニングを再開しました。最初は順調に台車に乗って、檻にも収容できていましたが、突如、台車に乗らなくなってしまいました。更には獣舎から出てこないという事態になりました。修正のためのトレーニングを行いました。手術日が迫っていたことから、搬送方法の変更を余儀なくされました。

### ・手術当日

結局、搬送は獣舎の入口に檻を設置して収容する方法に変更しました。檻までの誘導は修正ができたため、問題なく収容することができました。そのまま檻を台車に乗せて手術室前まで搬送しました。搬送中のユウキは時折顔を動かし、外の様子を気にすることはありましたが、檻収容トレーニングの成果もあり落ち着いた様子でした。搬送から全身麻酔までは事前麻酔検査と同様に、保定せずとも問題なく実施できました。

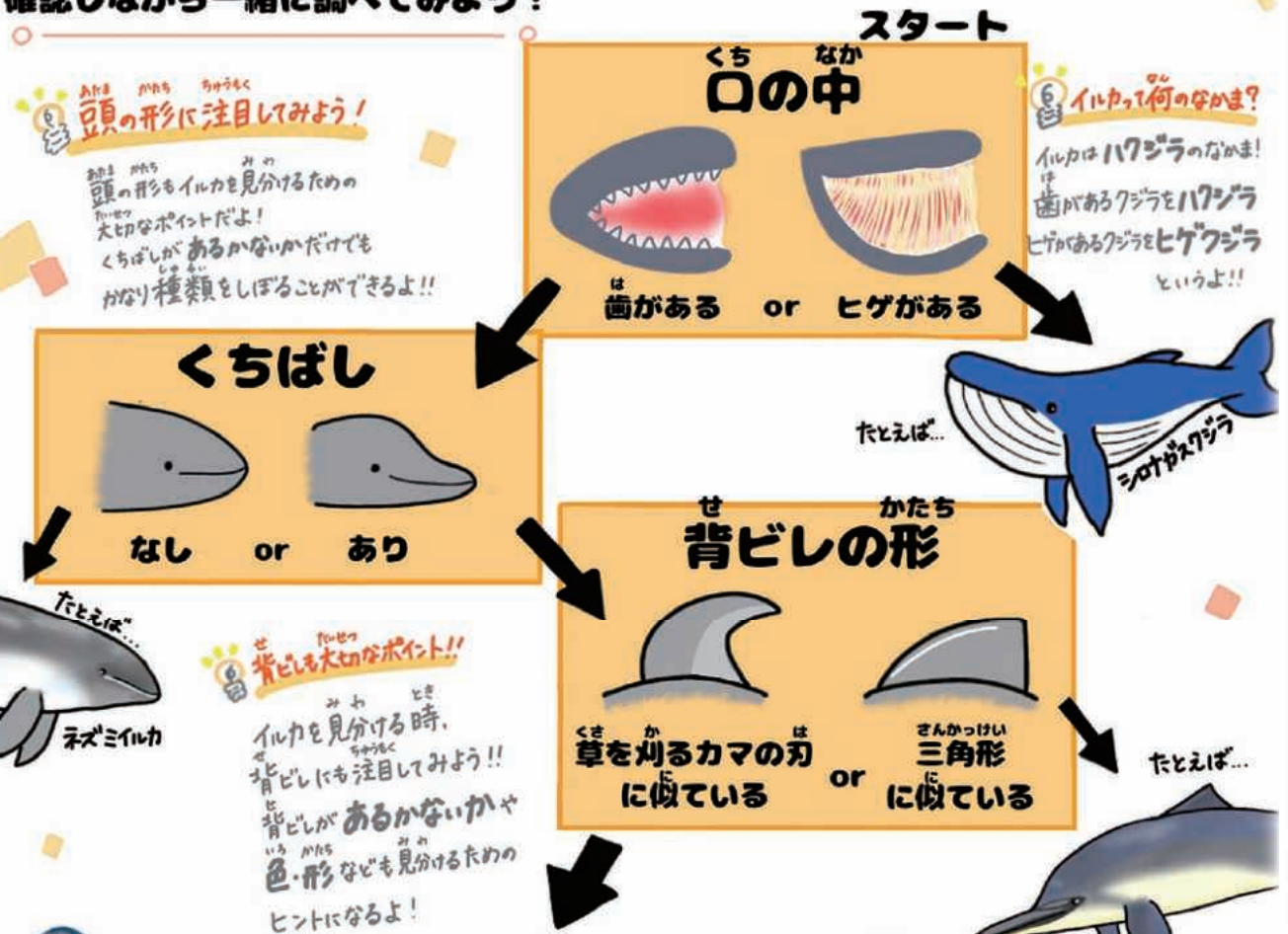
## 5 まとめ

事前麻酔検査と手術当日では檻までの搬送方法に違いはありましたが、全身麻酔までの行程を無保定、無給餌で実施することができました。その結果、ユウキへの負担を軽減できたことから今回のトレーニングは有効でありました。

(戸田)

# イルカの種類を調べるには?

私たち飼育員は、イルカの種類を調べる時、見た目からわかる体の特徴などの情報をもとに見分けています。当館で飼育しているイルカを例にそれがどんな種類か特徴を確認しながら一緒に調べてみよう!



当館で飼育しているのは、**カマイルカ**

他にも体の大きさ、色や模様、住んでいる場所などでも見分けることがあるよ! カマイルカの特徴を図鑑で確認してみよう!

# ようこそ水族館へ

## ～生きものたちのエピソード～

### 『スズハモの搬入』

ここは石川県金沢市にある「金沢港いきいき魚市」。県内で漁獲された新鮮な魚介類が並ぶ市場です。市場へ行くと並んでいる魚種によって、リアルな海の状況が分かり水族館飼育員にとってもよい勉強になります。近年、海水温が上昇しているとニュースなどで耳にすることが多いと思いますが、市場でも本来は南の暖かい海域に生息する魚が増え、県沿岸で獲れていた魚が減っているの是一目瞭然です。

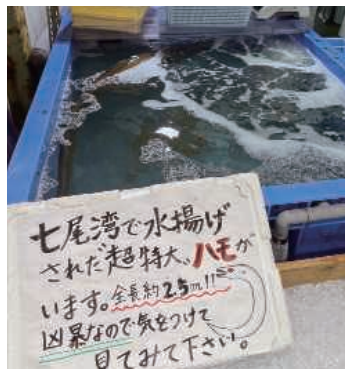
いきいき魚市には数店舗の鮮魚店が軒を連ねます。その中で一際人が集まる店舗に目を惹かれ、立ち寄ることにしました。自然と飼育員であることも会話し、何か貴重な生きものがあれば連絡がほしいと伝え、その日は金沢港で水揚げされたピチピチの甘エビ“ホッコクアカエビ”を買って帰宅しました。

それから約3年…

なかなか都合が合わず、市場へ行けずじまいになってしまいました。正直、お願いしていたことも、うろ覚えになっていました。すると2025年9月1日に当館に1本の電話が。

「何か珍しい生きものが獲れたら、連絡くださいって言ってたので連絡しました! どうかスズハモいませんか?」覚えてくれていたのです。

スズハモとは、名前のおとりハモの仲間ですが、ハモよりも大きくなるのが特徴です。また側線孔(そくせんこう)という器官の数が違います。側線孔とは、魚が水圧や振動などを感じ取る器官で泳ぐ方向や障害物を察知する際に役立っています。頭部から



上島商店でも大切に飼育されています。ローカルラジオでも話題に

肛門までの側線孔の数がハモでは40～47、スズハモは33～39と違いがあります。当館でも過去に数回、搬入されたことはありますが飼育例も少なく、長期飼育は難しいものでした。

翌日、すぐにお礼とスズハモの状態確認へ。2mを超える大きな個体で水温や水質も管理されており、やや擦過傷(さっかしょう)があるものの状態は良好で、数日後に活魚車にて当館に搬入されました。

現在は、海の自然生態館にて展示中です。擦過傷は回復傾向で、搬入当初より胴回りも太くなりました。夜行性のため、開館中は底層でじっとしていることが多いですが、ぜひ迫力のある姿を見に来て下さい。

当館で展示・飼育されている生きものは、地元の漁業者から搬入することが多く、日頃からの漁業者と飼育員のつながりがあってこそ成り立っています。今回はプライベートでの店主と顧客のつながりから、貴重な生きものの搬入へと発展しました。

当館で生きものを展示・飼育できているのは、多くの関係者のおかげだと改めて実感しました。

これからも多くのつながりを大切に、また、つながりを増やしていくよう努めていきたいです。

さて、次の休日はどこへ行こうか



身長 173cmの私とスズハモ

寄贈していただいた店名

〒920-0332 石川県金沢市無量寺町ヲ52  
金沢港いきいき魚市 金沢上島商店



展示中のスズハモ

〔渡部〕



## 飼育員がとらえた 奇跡の一枚



### 「太陽に向かってジャンプ!!」

水面から4.5mの高さにぶら下がっているボールにタッチを決める「ヘディングボール」。イルカショーでも大きな盛り上がりを見せる種目の1つです。

カマイルカのフタバがその練習をしているときのこと。いつもよりボールが輝いて見えるなと思って見てみると、太陽の光がボールに重なっていました。太陽がこの位置にあるのは午前中の限られた時間、さらには天気や季節によっては見ることができない日があると考えたらまさに奇跡!!

光と水しぶきが相まって幻想的かつ大迫力です。まさに太陽に向かって跳ぶフタバ、とてもかっこいいです。

〔新治〕



## 企画展「磯の生きもの展」

磯は波や潮の満ち引き、季節的な温度変化の影響を大きく受ける過酷な場所です。そのため、磯には過酷な環境に適応したさまざまな生きものが存在します。能登の磯でも同様に多様な生きものがみられることから、本企画展では生きものを入れ替えながら、延べ54種もの生きものを展示しました。磯観察の方法やルールを交えて展示したことによって来館者に磯への関心を深めてもらうことができたのではないかと感じています。



潮の満ち引きによる環境変化を水位の違う水槽で再現

【期間】 2025年9月6日～2026年1月4日

【観覧者数】 約84,000人

【場所】 本館企画展コーナー



岩の質感を表したモルタル製の自作擬岩

### 【展示生物】

魚類（イシダイ、イソギンポの仲間など）12種71点

軟体動物（ジャノメアメフラシなど）9種905点

節足動物（イソスジエビ、フナムシの仲間など）5種152点

棘皮動物（ムラサキウニなど）6種40点

延べ54種約1,100点

### 【その他】

解説板

磯観察のルール、危険な生物、潮の満ち引きの仕組みなど

資料展示

地震による海岸隆起の影響と被害生物

時間をかけて水位が変わる潮の満ち引きを来館者に見ていただくことは難しいため、水位の違う水槽を3基並べ、磯の生物相の違いを展示しました。岩の隙間や下側に姿を隠すことが多い生きものにも目が届きやすくなるように、凹凸が多く隙間の少ない手作りの擬岩や、ミラーシートを使い石の下側から観察できる水槽も本企画展の見どころとなりました。



転石下の生きものを観察できるミラーシート水槽

磯は年月による変化も見られる場所です。今後も来館者の皆様に今の能登の磯を感じてもらえるよう常設展示にも取り入れていきたいと考えています。

〔平田尚〕



能登半島地震から2年、水族館完全復活から1年が経過しました。すべてのイベントや展示が再開されましたが、裏側では危険な箇所が残っていたり、新たな破損箇所ができていたり、私たちの中ではまだ震災が続いているかのような出来事があります。今回はそのうちの1つである水槽の修繕について紹介します。地震で被害を受けた水槽のうち、まだ完全な状態ではなかったコーナーが『マングローブの水辺』『南の海の魚たち』『深い海の生きものたち』『水族館の変わりもの』の4つです。これらの水槽は、設置から40年以上経過しており老朽化が進んでいました。そんな状況で追い打ちをかけるかのように地震が発生し、配管や水槽架台の破損、さらには機械設備の動力盤からの出火などの被害がありました。完全復活に向けて配管の補修や水槽台の補強など、さまざまな応急処置を施して展示を再開させることはできたものの、このまま展示を続けていくことは困難であると判断したため、2025年の9月より本格的な復旧工事が始まりまし

た。復旧するにあたり、水槽や配管、足



場などキーパースペース（水槽の裏側）にあるものをすべて撤去し、何もない状態になりました。こんなにもすっきりとしたキーパースペースを見ることは21年間勤務している私でも初めてのことでした。そして、この空っぽになったところに新たな水槽や配管を設置していくのです。せっかく新しくしていくのですから、以前よりも魅力的な水槽を作りたいと思い、水槽の形状や装飾のデザインなど試行錯誤しながら1つ1つ設計していきました。当館の水槽は、すべてオーダーメイドで、水槽の大きさやアクリルの厚みなど細かく指定し、1か月以上かけて工場で作成します。水槽完成の連絡を受け、水槽に不備がないかの検査に向きました。お客様に観ていただく水槽であるため、心を鬼にして細かくチェック

をし、不具合はすべて修正してもらいました。また、飼育員の安全や使いやすさなども考慮し、できる限り理想に近いものへと近づけていきました。そして今年、ついに新しい水槽が当館へやってきました。検査後一度も水槽を見ていなかったため、内心ドキドキしながら設置された水槽を確認したところ、とてもきれいな水槽ができあがっていたので一安心しました。その後、水槽の装飾も行い理想通りの素晴らしい水槽へと近づいてきました。ここから水槽をさらに魅力的なものにしていくのは飼育員の腕の見せどころです。まだ工事が残っていてお披露目はもう少し先ですが楽しみにしててください。皆様の期待を裏切らない素晴らしい水槽ができあがっていると幸いです。



〔花崎〕

## イルカとのふれあいプール



2026年1月1日から12日までの期間限定イベントとして、「イルカとのふれあいプール」を1日2回実施し、12日間で150名を超える方が参加しました。被災以前、このイベントはイルカトレーニングセンターで連日実施していましたが、地震による生きものの緊急避難をきっかけに、しばらく休止したままでした。トレーナーの説明を聞きながらカマイルカを間近で観察し、胸ビレを触り、さらにはエサやりをするという10分ほどのイベントですが、参加者全員がふれあいを楽しみ、イルカの生態に驚き、時に怖がりながらイルカとの時間を満喫していました。イルカショーで迫力ある姿を披露しているカマイルカたち



と直接触れ合うことができる良い機会を作ることができたのではないのでしょうか。

水族館で飼育されている生きものの生態や能力などの魅力を伝えることは、私たち飼育員の重要な仕事の一つです。今回のようなふれあい体験を通して、より多くの生きものの魅力を、より多くの方に広げることができればと思っています。



〔釘宮〕

## ジンベエザメ「モモ」の死亡



ジンベエザメのモモは能登半島地震被災後の2024年10月11日から展示を開始した個体で、被災後の復興のシンボルとして職員一同を勇気づけ、お客様を楽しませてくれていました。

搬入当時の全長は4.4m、当館に搬入されるジンベエザメとしては珍しい



メスの個体で、少し神経質な印象がありました。当館ではエサにナンキョクオキアミ・ツノナシオキアミ・シラス・サクラエビなどを与えているのですが、モモはシラスがあまり好きではないようで、順調にオキアミ類を食べているところにシラスを与えると違和感から一瞬止まり、次の瞬間には水ごと一気に吐き出してしまうということが何度かありました。担当者のエサの与え方の違いが関係しているかもしれませんが、一度嫌がられるとその後数日は警戒してシラスは食べなくなるため、気づかれないようにエビ類に少しずつ混ぜて与えるなど工夫をしないと食べてくれないような一面もありました。

## 「突然の異変」

2026年1月9日、モモが突然エサを食べなくなりました。

数日前まで元気にエサを食べていたのですが、1月15日の開館前の見回り時に体調を崩している姿を確認し、それから間もなく死亡しました。

後日、1月25日まではジンベエザメ館の入口に献花台を設置してモモの死を悼み、たくさんの方から献花していただきました。現在死亡の原因究明を進めている途中ではありますが、今回の出来事を1つの教訓とし、またみなさんにジンベエザメの元気に泳ぐ姿を見ていただけるよう努めていきたいと考えております。

〔國頭〕



# 海づりセンターだより

## 今シーズンの釣果情報 (R7 夏～冬)



### ◆8月

夏休みシーズンで釣り桟橋は家族連れを中心に賑わいました。イシダイの子どもで縞模様がとてもかわいい「シマダイ」がよく釣れ、引きが強くてすぐ釣れることも多いため、子どもたちに大人気でした。

### ◆9月

水温が例年よりやや高かった影響もあり、シマダイやマダイの子どもでもある「チャリコ」も釣れ、色鮮やかな姿に「タイが釣れたと」喜び声も多く聞かれました。

また、常連さんがチヌ(クロダイ)を釣り上げる場面も見られ、初心者から経験者まで、それぞれの楽しみ方ができる秋の海づりセンターとなりました。

### ◆10月

青物・ブリの若魚「コゾクラ」が多く釣れる印象的なスタートとなりました。小型ながらも青物ならではの素早い動きと鋭い引きが楽しめ、釣り場は連日活気に溢れていました。さらに、アオリイカが好調で数釣りを楽しんでいました。

秋が深まるにつれ、季節ごとの魚の動きが感じられ、その時々で違った釣果が楽しめるシーズンとなりました。

### ◆11～12月

気温の低下とともに海も落ち着き、じっくり釣りを楽しめる季節。クロダイ、マアジ、メジナは安定した釣果を保ち、アオリイカは成長し1kgを越えるサイズのものも登場しました。



## トピックス

### 「まさかの大物!海づりセンターでカジキがヒット」

この秋、釣り客の方が何と1mを超えるカジキをヒットさせるという驚きの出来事がありました。取り込み寸前まで寄せたものの、惜しくもバラしてしまいましたが、「こんな近海でカジキが釣れるとは!」と、居合わせた釣り人もスタッフも騒然。自然の豊かさと、海釣りの夢を改めて感じさせられる一幕でした。



### 【ひとこと】

季節ごとに表情を変える海づりセンター。これからも安全第一で、皆様に海づりの楽しさをお届けしていきます。

## SNSで反響のあった投稿

のとじま水族館 (公式) @noto... · 1月25日  
腹筋をして体力をつけて、寒い冬を乗り越えよう🐻

#ゴマフアザラシ #キュー #お兄さんと一緒に #腹筋 #寒い冬を乗り越えよう #のとじま水族館 #のとじま臨海公園水族館 #のと水 #能登島 #七尾市 #石川県



18 1,453 7,075 21.4万

### 2026年1月25日投稿

アザラシの腹筋動画です。さらに飼育員も腹筋をする様子に、大きな反響がありました。

### コメント

飼育員さんをおさえてくれるのが可愛い! 一緒なら筋トレがんばれそう! など

### 生きものの投稿やイベント情報は SNS をチェック!

公式 X

公式 Facebook

公式 Instagram

公式 LINE



イベントの詳細や最新情報は ホームページをチェック!

のとじま水族館

検索

〔竹山〕

# 飼育員のお仕事



## 「イベントに合わせた水槽展示」

当館ではハロウィンやクリスマス、お正月などのシーズンに合わせたイベント水槽を展示することがあります。常設の水槽展示では海や川で採集した石や砂、海藻などを使って、展示する生きものの生息環境を再現しますが、イベント水槽ではイベントや季節の雰囲気盛り込んだ展示をします。イベント水槽の展示に向けて準備することが主に2つあるのでご紹介します。

### ① 生きものの準備

展示する生きものはイベントに関連する名前をもっていたり、色合いや体形がイベントをイメージさせるような種類を選びます。クリスマスとお正月に設置した水槽では、「ピンポンパール（金魚の一種）」と「ポットベリーシーホース（タツノオトシゴの一種）」を展示しました。

### ② 展示水槽の準備

イベント水槽において、生きものと同じぐらい大切なのが展示水槽のレイ



クリスマスイベントの水槽



手作りツリー



お正月のイベント水槽



磯をテーマとした常設水槽

アウトです。常設展示は自然下での環境に近づけたレイアウトにしますが、イベント水槽ではイベントの雰囲気を壊さないようにテーマに合わせたレイアウトにします。しかし、水槽内の飾りつけを優先することで、展示する生きものに悪影響を与えるわけにもいかず、最も悩む部分です。

ここまで紹介した業務を日常業務と並行して行わなければならないため、水槽の設置完了まではとても忙しい毎日です。しかし、イベントに直結する水槽はお客様からの注目も高く、水槽展示期間中は多くの方にイベント水槽を見ていただけました。ぜひ、当館を訪れた際にイベント水槽が設置されていることがあれば、飼育員の情熱と愛と汗が詰まった水槽をご覧になってみてください。

〔義川〕

	生きもの	水槽レイアウト
クリスマス	ピンポンパール (クリスマスオーナメントを連想させる姿)	・雪原をイメージした底砂、背景 ・ツリーを模した水草
お正月	ポットベリーシーホース (干支=馬が名前に入っている魚)	・塩ビ管で作った鳥居 ・ミル(漢字で“海松”と書く海藻)や塩ビ管で作った門松 ・初日の出をイメージした背景
常設水槽 ※例:磯の水槽	水槽のテーマに合わせた生きもの※磯に生息している生きもの	・磯で採集した石や海藻のみで作ったレイアウト

## のとアクアニュース

10/4 ~	水族館裏側探検隊開催 (毎週土曜日)
10/11 ~ 10/13	ジンベエザメのお食事ガイド
10/11 ~ 10/31	ハロウィンフォトブース設置
10/13	レディース day (海づりセンター 女性入場料無料)
10/25	ハロウィンダイバーとの写真撮影
10/26	飼育員教室 (ペンギン) 開催
10/31 ~ 1/25	ラブライブ! 蓮ノ空女学院スクールアイドルクラブとの特別コラボレーションイベント開催
11/1 ~ 12/25	イルカ・アシカショー、ペンギンのお散歩タイム、マダいの音と光のファンタジア、イワシのビッグウェーブ クリスマスバージョン開催
11/9	能登の豊かな里海講座
12/5 ~ 12/25	クリスマス水槽設置
12/20・21	サンタダイバーとの写真撮影
12/29 ~ 12/31	休館
1/1	イルカ・アシカショー お正月バージョン開催
1/1	干支ダイバーとの写真撮影
1/1 ~ 1/4	中学生以下入場料無料
1/1 ~ 1/12	期間限定「イルカとのふれあいプール」実施
1/1 ~ 2/2	お正月水槽設置
1/10 ~ 5/11	企画展「共に生きる生きものたち展」開催
1/18	能登の豊かな里海講座
2/7 ~ 2/14	イルカ・アシカショー バレンタインバージョン開催
2/22	飼育員教室 (クラゲ) 開催
3/20 ~ 4/6	新一年生入場料無料



ハロウィンダイバー



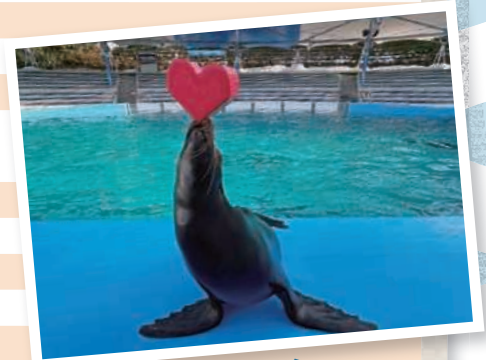
お正月フォトブース

## 実習・職場体験等

10/31 ~ 11/13	東京動物専門学校実習生受け入れ
2/3 ~ 2/14	専門学校ルネサンス・ペットアカデミー静岡校実習生受け入れ
2/18 ~ 2/28	専門学校ルネサンス・ペットアカデミー静岡校実習生受け入れ
3/1 ~ 3/15	大阪 ECO 動物海洋専門学校実習生受け入れ

## 会議・研修会の出席

10/27	講師派遣 全国盲人福祉大会 (金沢市)
11/6・7	(公社) 日動水協 中部事務主任者会議 (愛知県)
11/12 ~ 11/14	(公社) 日動水協 トレーニングセミナー (神奈川県)
11/20 ~ 11/22	(公社) 日動水協 海獣技術者研究会 (石川県)
11/26・27	(公社) 日動水協 設備会議 (兵庫県)
11/27・28	(公社) 日動水協 中部飼育技術者研究会 (静岡県)
12/5 ~ 12/7	(公社) 日動水協 種保存会議 (神奈川県)
12/19・1/15	接遇・クレーム対応研修 (ふれあい公社)
12/23	マネジメント研修 (ふれあい公社)
1/27 ~ 28	(公社) 日動水協 水族館技術者研究会 (東京都)
1/30	講師派遣 (内灘中)
2/8・9	ペンギン会議全国大会 (東京都)
2/9	ペンギン飼育技術研究会 (東京都)
2/19	(公社) 日動水協 コツメカワウン計画推進会議 (東京都)
2/24	ペンギン類の飼育及び個体群管理勉強会 (オンライン)
3/4・5	(公社) 日動水協 中部ブロック獣医師研究会 (石川県)
3/9・10	(一社) 日水協 水族館研究会 (東京都)



バレンタインショー



## のとしま水族館

〒926-0216 石川県七尾市能登島曲町15-40  
TEL0767-84-1271 FAX0767-84-1273 URL: <https://www.notoaqua.jp>